



上：日本郵便としなの鉄道が互いに連携協力することで長野県のにぎわい創出に寄与するような建物をめざし建てられた。地域で長く親しまれてきた赤い屋根を採用した、ノスタルジックな外観デザインとなった。右上：建物の屋根を全面的に頑強なトラス構造にすることにより、無柱空間が構成された。右下：駅舎・郵便局の床組みをせず、壁を建てていく工程。

トラス構造で開放的な空間を創出

郵便局が併設された駅舎

長野県上田市にあるしなの鉄道線の「大屋駅」は、1896年に日本初の請願駅^{※1}として建築されました。長い年月地元で親しまれてきた駅舎でしたが、老朽化を理由にツーバイフォー工法の建物に建て替えられました。

駅を中心とした街づくり計画の一環として、地方鉄道の駅舎としては全国で初めて郵便局が併設され、郵便局における駅業務の一体的な運営ができるようにという試みが図られました。そこで、屋根の架構に頑強なトラス構造を採

用、駅舎と郵便局を一体の空間として使える広々とした無柱空間が確保されました。この構造により郵便局と駅舎の間がスムーズに行き来できるようになっています。

本施設の木材使用量は 24.4 m³。床組みに木材を用いていませんが、使用木材の炭素貯蔵量は 19.6t-CO₂^{※2}あり、スギの木39本分^{※3}の脱炭素にあたります。

※1 地元住民等の陳情により開業した駅。 ※2 林野庁ホームページ「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」に基づく試算。 ※3 同ガイドライン炭素貯蔵量計算シートによる換算。

DATA - しなの鉄道線大屋駅／大屋駅郵便局

所在地：長野県上田市
 運営事業者：しなの鉄道(株) (駅舎)
 日本郵便(株)信越支社 (郵便局)
 用途：駅舎・郵便局
 構造：枠組壁工法
 階数：1階建て
 敷地面積：1,182.34m² 建築面積：162.08m² 延床面積：151.54m²
 設計・施工：甲信アルプスホーム(株)
 工期：2023年7月～2024年2月



左：駅の待合室に郵便局の入り口がある。駅の改札口・待合室と郵便局とを仕切る壁のほかには構造的な壁や柱がない。右：ホームから見た駅舎。